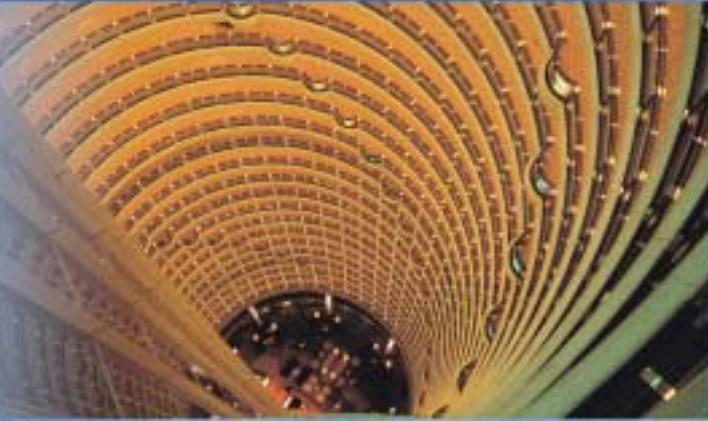


上海で最も有名なホテル(グランドハイアット上海)の54階から87階までの吸い込まれそうな吹き抜け



中国のブラックホール
日本の展望はいかに

水野 一郎

関西大学の交換派遣制度によって昨年7月上旬から10月上旬まで約3カ月間、上海の復旦大学に滞在する機会を得た。これまで何度か上海を訪れたことはあるが、いずれも数日間であり、今回のような長期の滞在は初めてであった。上海は複雑な魅力ある都市である。戦前は日本人が欧米の息吹を感じることができ、戦後は最も近い国際都市であり、また租界の多い植民地都市であり、青幫や紅幫が暗躍する魔都上海でもあった。上海は多くの日本の文化人を魅了し、芥川龍之介に勧められて上海に滞在した「新感覚派」の横光利一は、その後有名な小説『上海』を著した。

中国では長江(揚子江)を龍の身体に喩えて長江の河口に位置する上海を「龍頭」と呼び、中国の経済発展の牽引車、成長のエンジンに喩えることが多い。実際ここ10年間の上海の経済成長はきわめて高いものとなっている。2008年の北京オリンピックに続く巨大イベントが2010年に上海で開催される万国博覧会である。現在そのために道路や地下鉄の建設など一層のインフラ整備が進められている。今や上海には高層ビルが4千棟近くあり、日本全国の高層ビルを合計した数よりも多くなっているといわれている。

数年前に「上海を制するものが世界を制す」と題された著書が公刊されたが、上海の活力には「昇竜」を感じさせるものがある。リニアモーターカーの運行、地下鉄や軌道線の延長、歩行者天国となっ

ている南京路や再開発でおしゃれな観光スポットとなった新天地、整備された外灘(バンド)など。それ以外にも住んでみると多くの公共交通機関で使用できる公共交通カード(プリペイド式のICカード)やコンビニの便利さに驚かされた。なによりも派遣された復旦大学は、新しい体育館や立派な高層ビル、5つ星ホテル(クラウンプラザ)の誘致や周辺の整備などキャンパスも大きく変貌していた。

幸田真音は上海を舞台にした最近の小説『周極星』において、現在の中国がその強力な「引力」によって、ありとあらゆるものを世界中から引き寄せ、まるで宇宙のブラック・ホールのようにその巨大な体内に取り込んで急成長を遂げていると語っているが、その中心が上海である。上海経済圏の発展にもなっており日本からこの地域に進出する日系企業も日本人もこのブラック・ホールに引き込まれている。定住者が約5万人、出張や観光で約5万人、合計10万人近くの日本人が上海経済圏で活動しているとのことである。関西大学の卒業生で組織される上海関大会も120人を超えている。

1862年6月この都市を目の当たりにして日本の将来を危惧した幕末の志士高杉晋作は、もし現代の上海を見れば何を想い、何を憂い、将来の日本をどのように展望するのであろうか。現代の高杉晋作はどこにいるのだろうか。

(商学部教授)

高杉晋作も眺めた黄浦江と現代の上海を象徴する東方明珠塔

高杉晋作も眺めた黄浦江と現代の上海を象徴する東方明珠塔

千星殿

高校の必修科目未履修の問題が騒がれており、政治家から評論家まで、ブログミからブログまで百家争鳴状態が続いている。しかしこれらの狂騒曲には、「何のために学ぶか?」という根源的問題が決定的に欠落しているように思われてならない。何のために学ぶか? もちろん、高校生や高校のホッケーはとにかく、「いい大学」に入りたい、入れさせたいためであろう。しかし、これらはあくまで俗な「ホンネ」であって「タテマ」であってはならない。人はいつか何のために学ぶのだろうか? 学ぶ楽しみ、識る喜び、それを他人に分け与える寛大さ、そしてまだ知らないことを知る謙虚さ。それこそが、本来学校で教わることではなかったのだろうか? どのような良心は、狂乱なマスコミや政治家の大合唱からはかき消されてしまいがちな、無力な嘆きに過ぎないのかもしれない。しかしそれでも、この知の最後の砦の「タテマ」だけは見失わないようにしなければならぬ。それこそがやはり学問の本質であり、大学の存在意義なのだから。

(安田 陽)

HEADLINE

- 10 面 特集 やってみたいボランティア
- 7 面 フル稼働
- 6 面 関西大学アイズアリーナ たまた今
- 4 面 リードセンターで学ぶ
- 2 面 フランスの2校と交換協定 特集 関西大学の社会連携

フランスの 2 校と交換協定

仏最大の総合大学 西カトリック 質高い語学教育

本学はフランスにあるパリ第七大学(ドゥニ・テイドロ)と西カトリック大学との間に学生交換協定を締結した。パリ第七大学(ドゥニ・テイドロ)は本学にとって三十三番目、西カトリック大学は二十五番目の協定大学となる。フランス国内の協定大学は、すでに協定締結しているパリ第三大学(ブルボンヌ・ヌール)を含め三校となる。

パリ第七大学(ドゥニ・テイドロ)は、一九七〇年にソルボンヌ大学(現在の蒙をめぐらしている。同大学は、パリ市中心部にある。卓抜な成果をあげており、今日では、フランスで、学、医学、歯学、文学、言語学、人文科学および社会科学が盛んな。留學生約五千五百人)に位置づけられている。同校は、啓蒙主義時代のドゥニ・テイドロによって奨励された人文主義の伝統にのっとりながらも、新しいところにあるメヌ・エ・エ(九一―一三)あわせに、募集説明会、事前事後

充実した体験談が相次ぐ

平成 18 年度 学校インターンシップ終了

1 月 15 日に シンポジウム

学生が学校現場におもむき、教員のさまざまな仕事や、教員としての責任や、教育現場での実践や、今年度は、短期集中型(七―九月)、長期型(九―十二)あわせに、募集説明会、事前事後



シンポジウムで、延べ百五十人の学生を八十八校の小中高等学校および幼稚園に派遣した。今年度は、短期集中型(七―九月)、長期型(九―十二)あわせに、募集説明会、事前事後

の講習(学校業務講座、マナー講座、事後報告会)を行い、今年度は、短期集中型(七―九月)、長期型(九―十二)あわせに、募集説明会、事前事後

学部	氏名	月・日・時間	場所	テーマ
文	森 瀬 壽 三	1 月 19 日(金) 第 3 時限	高文館 501 講義室	私のおくのはそ道
社	若 林 政 史	1 月 9 日(火) 第 3 時限	第 3 学舎 301 教室	会社制度の構造問題と将来展望
社	妹 尾 剛 光	1 月 9 日(火) 第 4 時限	第 3 学舎 301 教室	コミュニケーションの主体の思想構造
工	山 内 脩	3 月 1 日(木) 13:00-15:00	高文館 1 階 マルチメディア A V 大教室	生物無機化学に魅せられて 40 年
工	藤 田 武 良	3 月 10 日(土) 14:00-16:00	第 4 学舎 第 5 実験棟 4 階 共同講義室	在職期間を振り返って
工	森 淳 暢			トライボロジー研究雑談: 私が辿った道

※会場はいずれも千里山キャンパス

六甲山荘に別館増築 複合運動施設 養心館が完成



六甲山荘(別館)

誠之館八号館(養心館)

これまでセミやサトルの合宿などとして利用されてきた六甲山荘に、新たに別館を増築し、昨年一月二十八日に竣工した。鉄筋コンクリート造地上二階建、地下一階、延床面積は四百八十八平方メートル。五十四人が研修できる研修室を擁し、本館からはじめ、大学および工務関係者のほか来賓を接待する。六甲山荘(別館)竣工式には約五百五十人が出席し、射撃場、柔道場、剣道場、建物竣工を祝う場およびアーチェリー場を

コロナアムに 100 人 東アジアテーマに活発意見

昨年十二月二日、法学部創立百二十周年を記念したコロナアムが千里山キャンパス高文館二階マルチメディア A V 大教室で開催された。全体テーマを「二十一世紀の東アジアと日本」と題し、前半は韓国世大文学文化研究センターの理事、河田博一学長を講師として、河田学長が「東アジアの未来」と題して講演を行った。後半は、関西学院大学豊後キャンパスの教授、藤原伸一氏が「東アジアの未来」と題して講演を行った。後半は、関西学院大学豊後キャンパスの教授、藤原伸一氏が「東アジアの未来」と題して講演を行った。

大学 トピックス

●「静宜大学特別留プログラム」を実施
本学は、協定大学である台湾の静宜大学の「静宜大学特別留プログラム」を実施する。本プログラムは、静宜大学の「静宜大学特別留プログラム」を実施する。本プログラムは、静宜大学の「静宜大学特別留プログラム」を実施する。

今年三月をもって定年退職する教員の退職記念最終講義が、左表のとおり予定されている。ふるって聴講してほしい。

退職記念最終講義

今年三月をもって定年退職する教員の退職記念最終講義が、左表のとおり予定されている。ふるって聴講してほしい。

会計大学院セミナー 塩川元財務大臣が来学

大学院会計研究科では、次のおりセミナーを開催する。終了後には、本学会計専門職大学院の進路説明会を開催する。学生をはじめ、父母や教員の積極的な参加を期待する。入場は無料。

テーマ「わが国の経済と資本市場」
日時 二月十日(土) 十三時―十六時
場所 千里山キャンパス 高文館二階マルチメディア A V 大教室
講演 塩川正二郎氏(元 院事務グループ)

財務大臣「わが国の財政と資本市場」
平松一夫氏(関西学院大学学長)「わが国の会計と資本市場」
司会 宮本 勝浩(大学院事務グループ)

来月17日に国際シンポ

世界の権威・エキスパート交流

激動の時代に

英語教育のあり方を発信

一月十七日(土)、十八日(日)の二日間、関西大学英語教育連携センター主催の国際シンポジウムが行われる。

本学大学院外国語教育研究科が、「学のネットワーク」キングと英語教員養成・現職教員・大学院生・地域の学校を巻き込んだ「連続型」教員養成の展開として申請したプログラムが、二〇〇五年文部科学省・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)に採択された。私達は目的達成のために、英語教育連携センターを立ち上げ、全力を尽くして、二年目にあたり「国際シンポジウム」を開催する。

1月18・19日

先端科学技術シンポ 講演99テーマ、パネル展示100

開催日 一月十八日(木) 開演 十時~十時十五分
一月十九日(金) 開演 十時~十時十五分
会場 千里山キャンパス 百周年記念会館

本シンポジウムは、先端科学技術推進機構主催で開催する年一回の総合シンポジウムで、機構傘下にある四つの研究部門(人工新物・機能素子・生産技術・情報・通信・電気)は特別講演、招待講演十五件、一般講演八十二件に加え、百超超のパネル・社会(と四つ)の展示の形で紹介するものがある。

特別講演は、大阪大学大学院生命機能研究科および医学研究科教授の柳田敏之(先端科学技術推進機構)の「工業連携研究センター」の研究開発の成果について、今回は特別講演、招待講演十五件、一般講演八十二件に加え、百超超のパネル・社会(と四つ)の展示の形で紹介するものがある。

敬指導主事 大阪府教育センター、田尻部教諭(高根東出雲町立東出雲中学校)、菅正隆氏(文部科学省初等中等教育局)等の英語教育を専門とする実力者を招き、加えて、本学からは八島智子教授、山根繁教授、竹内理教授、名部井敏代助教、齋藤が参加する。

東西学術研究所 シンポジウムを開催

私たちは本シンポジウム開催を通じて、英語教育激動の時代に、関西大学を基地として、新しい時代を切り拓く英語教育のあり方を発信していきたい。

(英語教育連携センター長 齋藤 栄二)

一月十九日(金)、二十日(土)の二日間、東西学術研究所主催、人文連携委員会協賛で、「アジア・世界を繋ぐ」をテーマとしたシンポジウムを開催する。内容は以下のとおり。

● 月十九日(金)
十三時四十分~十七時十分 千里山キャンパス 文学部附属セミナーホール
基調講演(その一)
「ヨーロッパ人にとってのアジア、アジアにとってのヨーロッパ」大船時代の新しい解釈のために
照野 問い合わせは先端科学 基調講演(その二)
「返還後の香港における伝統的な家庭料理の盛行」



布と見紛う「ちりめん本」

日本の詩歌や風俗、英文で紹介

も揉み伸ばしを繰り返して、縮緬に加工した縮緬紙(レーンペーパー)を用いることから、そう呼ばれるようになったといわれる。このちりめん本を最初に考案したのは、長谷川武次郎(一八五三~一九三八)である。彼の経営した長谷川弘文社は、明治十八(一八八五)年に日本昔風の「ちりめん本の代名詞」の存在となつて、現在、ほとんどの「Japanese Fairy Tale series」の extra no. 続シリーズが刊行されている。No. 1 から No. 20 までのセットが、ちりめん本は当初、日本国内の人びと、特に子ども



の語学教育のため、というのが販賣目的の第一義であつたが、その意図が外れて、外国人が日本に滞在した土産物として重宝されるようになった。そのためどうか、"Japanese Fairy Tale series" の一部を、除いて、そのほとんどを所蔵しており、それ以外の日本紹介の等、多数のちりめん本を所蔵している。

(図書館)

受賞

- ◆ 〇都市住宅会
二〇〇六年度都市住宅学
会賞・著作賞
工学部教授 江川 直樹
(平成十八年)
- ◆ 〇日本建築学会
二〇〇六年度日本建築学
会奨励賞
工学部専任講師
原 直也
(平成十八年九月七日)
- ◆ IEEE Systems,
Man, and Cybernetics
Society
Most Active Technical
Committee Award
(First Prize)
外国人語教育研究科 I
岡本 清美
(平成十八年)
- ◆ Orth Chinese International
Forum on Phonetics
Science and Technology
Student Award
(平成十八年)
- ◆ 〇都市住宅学
会賞・業績賞
工学部教授 江川 直樹
(平成十八年)
- ◆ 〇社団法人電気化学会
二〇〇六年度関西電気化
学奨励賞
工学部専任講師
杉本 敏規
(平成十八年十二月一日)

近況 報告

今春サピアタワーへ移転

東京駅近郊のダイヤ八重洲口階、地下四階、塔屋一階建の「サピアタワー」が、今春、R 東京駅直結の新ランドマークとなるビルである。センターの広さも従来の二百二十平方メートルから六百三十七平方メートルに拡大する。

大きな変更点としては、二百人収容可能な教室を備えることにより、東京の各種公開講座などの開催が可能となる。就職活動で東京を訪れる際は、今春リニューアルオープンする新しい東京センターにぜひ立ち寄ってほしい。

東京センター



方角へとスケールアップし、サピアの内容も首都圏での就職活動の拠点、受験生への入試情報発信の拠点、卒業生や父母の活動センター、産子との異業種交流の基地として、ますます充実することになる。

中之島センター



市民の法律相談引き受け

中之島センターでは、法科大学院「リーガルクリニック」に貢献することをめざした実習業(選択必修、半期二単位の演習授業)である。昨年十月から司法制度改革に向けた各種情報提供などを行っている。特に、「リーガルクリニック」の業務が開始されるなど、司法は市民にとって身近なものになりつつある。法律相談の場としての中之島センターの重要性はますます高くなっている。

なお、当センターには開放的かつ問題解決を図るために法的知識を応用して問題解決がとが訪れている。

新刊の扉

〇 商学部教授 大倉雄次郎
『企業価値会計論』
(平成十八年三月二十四日・中央経済社・定価二千三百円八税込)

はじめに

step1

大学は、歴史的にこれまで教育と研究を本来の使命としてきたが、社会情勢の変化とともに期待される役割も変化し、現在においては、社会貢献を教育・研究に加えて大学の「第三の使命」として位置づけている。言うまでもなく、人材養成や学術研究それ自体が我が国の発展に対する長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、公開講座や研究成果の事業化・技術移転等、より具体的・直接的な貢献が求められるようになっており、これがいわゆる「第三の使命としての社会貢献」と考えられる。

なお、ここでいう「社会貢献」とは、地域コミュニティや福祉・環境問題といったより広い意味での社会の発展への寄与と捉えるべきである。大学においてはそれぞれの個性・特色に応じた方法で社会への責務を果たしていくことが期待される。

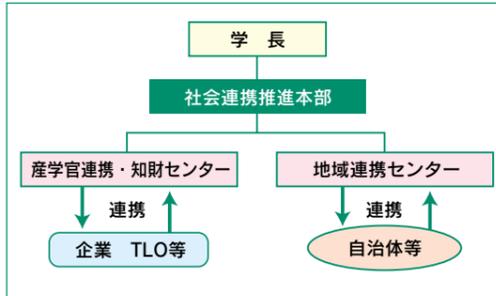
関西大学の社会連携

step2



関西大学は学是である「学の実化」、即ち「学理と実際の調和」を理念に教育・研究活動を充実させ、社会に優秀な人材を輩出してきた。

昭和39(1964)年、松下電器産業株式会社の創業者である松下幸之助氏から建物の寄贈を受けて工業技術研究所を設置し、関西大学における企業との協同研究を進め、産



学連携活動の礎を築いた。平成14(2002)年には、社会の多様なニーズに対応するため、学部や学科の壁を越えた横断的な研究活動の促進・拡大をめざす組織へと発展的に改組し、その名称を先端科学技術推進機構と改め、産学官連携事業を積極的に推進してきた。

同年、特許庁の「大学知的財産アドバイザー派遣事業」の第1期校に採択され、知的財産本部の構築と知財人材の育成を目的に3か年にわたる検討を行い、高い評価を受けて終了することができた。

この検討の結果、関西大学の個性と総合力を活かした体制を構築するため、学長直轄の組織として、平成17(2005)年4月、「社会連携推進本部」を発足させ、連携事業にかかる窓口の一本

関西大学社会連携基本方針

1. 大学の理念に基づき、大学の資源と学外の資源との融合により、新たな知の創出と活用を戦略的かつ効果的に推進することにより、我が国の社会、産業の発展に貢献する。
2. 学術研究成果を知的財産化し、それを産業界等に積極的に技術移転することを通じ、本学における教育と研究の社会的付加価値を高める。
3. 共同研究・受託研究の実施、技術相談などによる産業界との持続的な連携を効果的に推進する。
4. 研究成果を基礎としたベンチャー企業創出を支援し、新産業の創出に寄与する。
5. 公的機関・地方自治体・企業との連携を推進することで、実践的な教育を通して社会の発展に寄与できる人材を育成する。
6. 地域社会との連携の中心的拠点として、本学及び地域社会が有する知的・人的資源を相互に活用し、本学及び地域社会の相互の発展に寄与する。

化を図った。その傘下に、産学官連携事業の推進、知的財産の創造・保護・活用を通じ、本学の研究成果を社会へ還元することを目的とした「産学官連携・知財センター」と、教育、産業、文化、まちづくりなどの分野において、社会との連携を図ることを目的とした「地域連携センター」の2つのセンターを設置した。同本部は、社会連携の基本方針を定め、知的創造を社会に活かすために大学がどのように社会連携を推進すべきか、その戦略を策定し、大学の使命である「社会貢献」、開かれた大学としての役割、知の創造拠点としての役割をより一層推し進めている。

産学官連携・知財センター

step3



各種発表会で本学の研究成果を紹介する。教員だけでなく、大学院生も積極的に訪れた企業担当者にも説明する。

「産学官連携・知財センター」は、先端科学技術推進機構のもとで進めてきた産学官連携活動を積極的に展開し、連携事業の拡大・推進を図るとともに、知的財産の創造、保護(権利化)、活用といった知的創造サイクルの確立をめざしている。

「産学官連携・知財センター」では、東京国際フォーラム(イノベーションジャパン)、大阪インテックス(知財マッチングフェア、建設技術展)をはじめ年間20カ所以上の会場で延べ約50日間の展示・発表会を行い、本学が保有する技術や研究成果を紹介し、企業等との連携を促進している。企業等からの技術相談件数や学外共同研究、受託研究の件数も年々増加しており、産学官連携活動が、さらなる研究活動の充実につながっている。

本学の産学官連携の拠点は、千里山キャンパスのほか、東大阪市に大阪府が設置したものづくり支援施設「クリエイション・コア東大阪」内に設置している産学官連携オフィス東大阪サテライトでは、「ものづくり連続セミナー」や「企業との技術にかかる意見交換会」を開催し、参加企業ニーズの把握と本学の研究シーズのマッチングを図っている。また、東京センターや中之島センターを活用した産学官連携事業も計画しているところである。

そうしたさまざまな取り組みから生まれた研究成果の権利化や商品化および事業化に向けた積極的な活動を推進している。

本学の産学官連携の特徴として、現場密着型の産学連携であることが挙げられる。その代表的な例として、関西の多彩な企業が集積地区である大阪東部地域で「八尾バリテック研究会」を3年前に立ち上げ、研究会のメンバーである企業の工場に向き、各企業の抱える課題を研究し、改善を図る活動を行っている。課題は、その事象のみを捉えていたのでは解決を図ることが難しく、加工プロセスを含め現場を見学してはじめて課題解決の糸口が見えてくるものである。また、大阪東部地域ではDLC(Diamond Like Carbon)コーティングにかかる「課題解決型連続セミナー」を開催し、基礎編、応用編そして実用編と本学研究者のみならず先端技術を研究する日本の代表的な企業の研究者も迎え事業化に向けた講座を継続的に行っている。この活動は、大阪だけでなく、京都や兵庫の周辺地域にまたがり広範囲に展開している。



本学は、産学官連携のほか、他大学との連携、各種学会・協議会との連携についても積極的に推し進め、異分野と連携を行うことにより相互に補完しあい、その成果を社会に還元しようとする取り組みも行っている。一例として、大阪医科大学との包括的学術交流協定締結による医工業分野での連携が挙げられる。本学の持つ最先端技術と医

関西大学の社会連携

療を融合させ、最先端医療技術を確立する取り組みである。昨年11月には同大学と医工連携シンポジウムを開催し、最先端医療技術確立に向けた研究成果の発表と今後の研究テーマの確認を行った。

先に述べた学外共同研究や受託研究、技術相談においては、これまでも多くの企業や自治体との取り組みが実践されてきた。学外共同研究や受託研究に関わる研究室の活動は、その研究成果が企業において実用化されることで社会に還元されるとともに、企業の方と共同研究を進める中で、学生諸君にとっても、実践的な研究の機会を得ることであろう。本学では、大企業から中小企業まで、年間120件を超える学外共同研究や受託研究が進められている。

知的財産化への取り組み

step4

平成13(2001)年に、国は第二期科学技術基本計画を策定し、大学等の研究成果は大学等に帰属することを明確にした。また、平成14(2002)年には、知的財産基本法を制定し知的財産立国実現と大学等の体制整備推進計画を策定した。このような社会の変化の中で、本学は、先にも述べたように、知的財産の発掘、権利化、維持、活用など知的財産を取り扱う体制として「産学官連携・知財センター」を設置した。

本学の知的財産は年々増加し、特許出願の件数においては、現在では、他大学に引けをとらない状況となった。本学が保有するこれらの知的財産を企業に移転するため、産学官連携・知財センターでは、技術移転にかかる交渉を企業と行い、また、事業化に向けた技術支援を行っている。すでに本学の知的財産を活用した商品が市場に出回るようになった。

知的財産を活用することにより、企業からもたらされるロイヤリティー収入や知的財産を核とした産学連携活動によって学外共同研究、受託研究が促進されることで、「知的創造サイクル」が確立されるのである。

平成17(2005)年度は、知的財産化について検討する機関である発明委員会を約30回開催し、多様な分野からの特許化が試みられた。また、昨年10月に本学学生を対象とした「知的財産セミナー」(近畿経済産業局、NPO法人KGC共催)を開催したところ、定員を上回る参加があり、研究者だけでなく、学生諸君の「知的財産」についての関心の高さをうかがうことができた。

地域連携センター

step5

「地域連携センター」では、従来から取り組んできた多岐にわたる本学と地域との連携事業の窓口を一元化して、ノウハウの蓄積に努め、より効率的な連携事業を推進するため、具体的な活動に取り組んでいる。すでに吹田市、高槻市、八尾市、明日香村、株式会社りそな銀行、株式会社三井住友銀行、そして阪和興業株式会社と包括的連携に係る協定や産学連携に係る協定を締結し、教育、文化、産業をはじめ多岐にわたる分野において相互の発展・充実をめざしている。

地域に根ざした課題について、今年度は3回のシンポジウムを実施した。テーマとして、①「明日香の原風景を求めて」、②「格差社会を考える」、そして、③「安全・安心のできる地域社会の構築に向けて」を取り上げたところ、各回ともに多数の参加があり本学の取り組みに対する関心が高まったことは、今後の連携活動への展開に励みとなった。

明日香村では、本学の飛鳥文化研究所・植田記念館を会場に明日香村立明日香小学校の生徒を中心とした飛鳥ホルタルの保存に関する自然学習会が催された。

また、ボランティアセンターの協力を得て、明日香村のスタッ

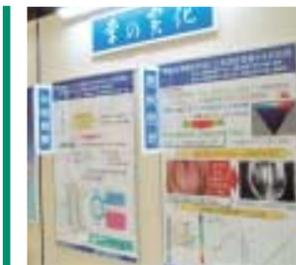


フと本学学生とが協働して、飛鳥川の環境整備並びに村制50周年の植栽事業を行うことができた。

このように、これからも地域のニーズを把握し、学生や大学院生をも含めた関係が深められるシステムを視野に入れた連携活動として充実させていきたいと考えている。

これからの社会連携

step6



内閣府、文部科学省、経済産業省など政府関係機関では、産学官連携に対するさまざまな施策がとられ、平成15年前後から景気回復の誘引力として取り込まれ、今日の自動車業界に代表される製造業の活性化などによっていざなぎ景気を上回る経済状況になったとま

でいわれている。社会連携を考えたとき、大学は、どうあるべきか。ある大学では、拡大路線を、ある大学では、地域密着型の連携をと多様な連携が行われている。

特に、大学との連携による学外共同研究や受託研究では、有用性や新規性のある商品開発への期待はもとより、最近では、1990年代前半に発生した米国での一企業の不祥事が市場に大きな影響を与えたことを契機とする企業の社会的責任(CSR=Corporate Social Responsibility)への取り組みが、商品価値に影響を与えるようになった。例えば、地球環境問題では、1992年の国連地球サミットで具体的に取り上げられ、また日本では、1993年に制定された環境基本法等の「循環型社会」の考え方を基礎として、日本の社会構造のあり方が見直された。1997年地球温暖化防止京都会議で議決された京都議定書は、その後の二酸化炭素などの排出量など地球温暖化防止に対する目標が設定され、企業活動や社会生活での地球環境問題が再認識される契機となり、その取り組み度合いが、商品の付加価値となった。大学との連携の中でも、そうした社会性の観点での有利性、新規性が取り上げられる機会が増えている。また、技術開発について、持続可能な開発(サステナブル・ディベロップメント:Sustainable Development)、すなわち、将来を担う世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、要求を満たしていこうとする理念に基づいた技術開発が求められている。これからは、単に技術開発という方向だけでなく、社会性や、環境など多面的な検証が必要となり、その検証過程での産学官連携における役割と期待が高まると考える。

関西大学は、総合大学という多面的な教育研究環境を備えている優位性を活かして、さらに今後の社会のニーズに合致した社会連携を推進したいと考えている。

本学の学生諸君においては、学生生活や学習・研究活動を通じて、また卒業後も、生涯を通じて関西大学を活用し、社会貢献、社会連携活動をより身近に感じ、「21世紀型知識基盤社会」の一員であるという姿勢をもって、積極的な関わりを継続するよう願うものである。





ただ今フル稼働

「関西大学アイスアリーナ」は、日本で初めて大学が所有する国際競技規格を満たす通年型アイススケートリンクとして、昨年七月十三日に竣工した。竣工以来、各競技団体を始め都道府県スケート連盟、マスコミ、自治体関係者などからの問い合わせや視察、取材の依頼も多く、全国から注目されており関心の高さがうかがえる。

施設の利用は、大学行事、正課体育、本学アイスホッケー部、アイスホッケー部の拠点としてはもちろんのこと、他大学の練習や公式試合にも開放し、その利用時間帯は早朝から深夜にまで至り、フル稼働の状況である。また、関西大学アイスアリーナは高槻市との連携を図るべく近隣の小・中学校の校外学習活動の場としても利用され、社会貢献の一翼を担っている。(高槻キャンパス事務チーム)



学生ボランティア 団助成事業に

財団法人学生サポートセンターが主催する「平成十八年度学生ボランティア団助成事業」に児童文化実践サリ「うぶ」の活動が採択された。

この事業は、「自由な発想と行動力によって社会貢献を」という趣旨で、十団体に助成金十万円が交付されるものである。

「うぶ」は、長年、吹田市内の小学校や児童園遊施設への訪問を行っており、地域に根付いた活動を継続している。主な活動として、児童園遊施設を順次訪問し、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動や、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動などがある。

「うぶ」は、長年、吹田市内の小学校や児童園遊施設への訪問を行っており、地域に根付いた活動を継続している。主な活動として、児童園遊施設を順次訪問し、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動や、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動などがある。

「うぶ」は、長年、吹田市内の小学校や児童園遊施設への訪問を行っており、地域に根付いた活動を継続している。主な活動として、児童園遊施設を順次訪問し、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動や、児童園遊施設に「うぶ」のオリジナルグッズを配布する活動などがある。

学生諸君のモラル向上を望む

「平成十五年学生生活実態調査」から、キャンパス内での学生のマナーが最も悪いと思われる項目を順に挙げてみると、①「授業中の携帯電話の私語」、②「喫煙マナー」、③「授業中の携帯電話の私語」、④「食堂でのマナー」、⑤「ゴミの捨て方」。

⑥「学内・大学周辺の路上駐車」となる。高校時代には「守り」ができていたマナーやモラルも悪いと思われる項目を順に挙げてみると、①「授業中の携帯電話の私語」、②「喫煙マナー」、③「授業中の携帯電話の私語」、④「食堂でのマナー」、⑤「ゴミの捨て方」。

返還義務のない 財団 給付奨学金

本学にはさまざまな奨学金制度があるが、今後は返還義務のない財団給付奨学金について紹介する。

金制度があるが、今後は返還義務のない財団給付奨学金について紹介する。

主な財団給付奨学金 (日本学生支援機構・関西大学奨学金・学部給付奨学金との併用も可能)

名称	給付金額(返還義務なし)
関西大学独自の奨学金 (関西大学冠(かんむり)奨学金)	年額240,000円
赤井奨学金	月額50,000円
柳瀬(なぎら)奨学金	月額35,000円(自宅)
久井奨学金	月額45,000円(自宅外)
野田奨学金	月額30,000円
財団・団体からの奨学金	月額35,000円(自宅)
財団・団体からの奨学金	月額45,000円(自宅外)
財団・団体からの奨学金	月額30,000円

※上記の奨学金は2006年度入学生が対象

広がるキャンパスの開放

校外学習で育つ未来の後輩達

校が本学アイスアリーナを校外学習の場として利用する。教育委員会を通じて利用する学校が決まり、一月は南大冠小学校六年生の二クラスと北清水小学校五年

校が本学アイスアリーナを校外学習の場として利用する。教育委員会を通じて利用する学校が決まり、一月は南大冠小学校六年生の二クラスと北清水小学校五年

「関西大学文化・芸術活動等奨励金制度」(業績部門)募集

今回募集する業績部門は、課外活動や自主活動において、優れた実績を残した学生を評価し、奨励金をもって支援するものである。

活動において、優れた実績を残した学生を評価し、奨励金をもって支援するものである。

活動において、優れた実績を残した学生を評価し、奨励金をもって支援するものである。

「応募要項」

応募資格 関西大学に在学中の学生または所属する団体のうち、文化、学術、福祉、ボランティア活動等の分野において、優れた業績をあげた個人または団体

応募方法 所定「業績報告書」に必要事項を記入の上、窓口へ提出

募集期間 平成十九年一月九日(火)～一月三十一日 機関誌「誠」の創刊

関大通信 第340号

平成19年(2007年)1月9日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は2月1日発行の予定です

やってみよう! ボランティア
行ってみよう! ボランティアセンター



「ほっとけない。なにかしたい!」がボランティアの第一歩

平成17年4月に関西大学ボランティアセンターが開設されました。みなさんはボランティアやボランティア活動という言葉から、何を連想しますか。「奉仕」、「ただ働き」、「慈善事業」...どちらかと言うと、かたいイメージではありませんか。実はボランティアは、やっている自分が元気をもらい、楽しくなれるものなのです。ぜひボランティアセンターを活用してください。

センターに行ったら何をやるの?

センターには、随時さまざまな情報が寄せられています。実際にボランティアをやってみようと思ったら、次のような手続きをしてください。

- 1 登録 当センター所定の用紙に記入し、登録(ボランティア情報をメールなどで随時配信します)。
2 ガイダンス ボランティアに行く前的心情えや、ボランティア保険についての説明。
3 情報検索 当センターに届く各種団体からのチラシ・パンフレットにて情報を提供。
4 申し込み やってみたい活動を見つけたら、その団体に直接参加の申し込み。
5 活動報告 活動終了後、当センター所定の報告書をセンターへ提出。体験談を聞かせてください。

講座案内

ボランティアセンターでは、さまざまな講座(下表)を開講しています。受講生からは、「これらを受講することにより、コミュニケーション能力を身につけるだけでなく、自分を見つめることができ、さらには元気をもらうことができた」との多くの感想が寄せられています。来年度もこれらの講座を開講しますので、ふるって受講してください。

平成18年度ボランティアセンター実施講座一覧(全講座受講料無料)

Table with 4 columns: 講座名, 概要, 開講時期, 回数等. Rows include ボランティアセンタースタッフ養成講座, ボランティアセンター講座, アーシャニング講座, ファシリテーション講座, 手話講習.

*平成19年度の予定については、ウェブサイト等で確認してください。



講座での発表風景

本号で取り上げたボランティアセンターの役割もまた、広い意味における大学の社会連携活動として位置づけ得る。社会に開かれた大学が、その期待に応えるためには、研究・教育機関としての能力の研鑽がますます重要な面もある。その限りでは大学の自己責任は、いまなお古典的である。本号では、「大学生のモラルとマナー」の低下についてもまた取り上げた。社会を見つめ直すべきなのかもしれない。(小泉 良幸)

集え! 学生スタッフ

学生スタッフとは? 私たち学生スタッフは、ボランティアセンターの職員と一緒にセンターの事業運営に携わっています。最大の武器である「学生の目線」を活かし、少しでも多くの関大生が気軽にボランティアに参加できるように働きかけをつくるために、アイデアを出し合い、さまざまなサポート事業を行っています。

過去の活動 スタッフは、「ボランティアの芽を育てる」ことをコンセプトにさまざまな取り組みをしています。今年度の学園祭では、「環境」をテーマに、ゴミの分別・回収と環境にやさしいとされている「へん」のアクセサリー販売・作成教室、環境に関するパネル展示を行いました。他に、スタッフによる「ボランティア活動相談コーナー」の常設や、ボランティア団体活動報告会、エイズキャンペーンなどを開催しました。

学生スタッフの声 私は「何か」はじめたいという漠然とした気持ちで3年次生から学生スタッフに参加しました。学生スタッフとして活動し、自分の考えを実現させていく中で、この漠然とした気持ちが充実した確かなものになっていくのを今体感しています。学生スタッフは、各自が「何か」を求めて集まり、「ほっとけない」「なにかしたい」と思うことを自分たちで企画し、それを実現させてきました。「何かやってみよう」と思っている学生は、気軽にボランティアセンターに来てください。そして、あなたの「想い」を実現させてみませんか。協力しあえる仲間がいる場所、それが学生スタッフです。(福井 友則・文3)

ボランティア体験者の声

昨年2月に新潟県中越地震被災地への雪かきボランティアを募集した際の参加者の感想です。これからボランティアを始めようと思っている方のヒントになるのではないのでしょうか。

体験者の声 ボランティアとは何か人のためにということはもちろんですが、自分自身のためでもあると思います。就職活動を控えた頃、自分とはどういう人間なのか、一度、自分自身を見つめ直したいと考えていました。ちょうどそんな時に、新潟地震の被災地への雪かきボランティアの話を知り、行くことを決めました。私はそこでいろいろな人たちと出会い、普段の生活では経験できないような事を体験し、自分自身について非常に考えさせられました。また大阪に帰る際にも「わざわざ遠いところからありがとうね」と言ってくれたり、逆にこのような貴重な経験をさせていただいたこちらがお礼を言いたいくらいの気持ちでいっぱいだったことを覚えています。もしこの文を読んで何かやってみようと思ってくれた人は、大学のボランティアセンターに足を運んでみてください。そういった人たちに力を貸してくれる人ばかりです。みなさんも自分自身を見つめ直す経験をしてみてください。(大平 将弘・経4)



学園祭での取り組み



被災地での雪かきボランティア

ぜひ一度、ボランティアセンターへ

ボランティアは、自分とは少し遠い世界のことと思いませんか。ボランティアに参加するきっかけは人それぞれ。「就職活動の時にアピールできるから...」という人もあるかもしれません。それでも結構です。やってみて、自分がどう感じるか、何を覚えるかは自分次第。思いがけぬ発見もあることでしょう。特別な事ではなく身近なことからでいいのです。自分の肌で、ボランティア活動を体験してみてください。

当センターでは、さまざまな情報を提供するとともに、何から始めたらよいかわからないという人の相談も受けつけています。せっかくの大学生活、何もしなくても時間は過ぎていきます。少しのやる気を「形」にしてみませんか。ぜひ一度ボランティアセンターへ足を運んでみてください。



編集後記

水野 一郎(みずの いちろう) 教授
専門は管理会計論。CSR - 企業の社会的責任 - 会計、付加価値管理会計がライフワークで、最近では京セラのアメリカ・パリ経営と中国の企業会計に関心をもち、毎年中国を訪問している。

今月の表紙